

2016年度(2017年3月期) 第3四半期決算説明会



2017年2月2日

大正製薬ホールディングス株式会社

取締役 上原 健



2016年度第3四半期決算：概要

(億円)

	2015年度 3Q累計	2016年度 3Q累計	前年同期比 増減	
売上高	2,250	2,164	-85	-3.8%
セルフメディケーション	1,388	1,382	-6	-0.4%
医薬	862	783	-79	-9.2%
営業利益	227	266	+38	+16.9%
経常利益	291	314	+23	+7.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	187	237	+50	+26.5%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度第3四半期の概況：SM事業

(億円)

	2016年度 3Q累計	前年同期比 増減		要因
SM事業全体	1,382	-6	-0.4%	
SM国内	1,157	+13	+1.1%	
リポビタンシリーズ	474	-16	-3.2%	市場トレンドを上回って推移も、 ダウントrendは継続
パブロンシリーズ	188	+8	+4.6%	かぜ薬、鼻炎治療薬が好調
リアップシリーズ	123	-3	-2.7%	計画通り推移 前年リニューアルの影響あり
その他	372	+23	+6.7%	通販事業が順調に伸長
SM海外	203	-19	-8.4%	現地通貨ベースでは計画通り、 為替がマイナスに影響

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

- 国内OTC医薬品市場：前年同期比(4～12月)-0.3%
(インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース)



2016年度第3四半期 SM海外:売上高

(億円)

	2016年度 3Q累計	前年同期比 増減	
SM海外	203	-19	-8.4%
海外ドリンク剤	72	-7	-8.8%
海外OTC医薬品	126	-10	-7.5%
アジア	111	-3	-2.9%
その他	15	-7	-31.1%

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2016年度第3四半期の概況：医薬事業

(億円)

	2016年度 3Q累計	前年同期比 増減		要因
医薬事業	783	-79	-9.2%	
エディロール	175	+23	+15.3%	骨粗鬆症治療薬のベース薬として浸透
ゾシン	127	-101	-44.3%	薬価改定、後発品の影響等を受け減少
ボンビバ	46	+9	+23.9%	静注薬のメリットが認知、浸透
ルセフィ	21	+14	+206.6%	SGLT2阻害剤市場におけるシェアアップ
ロコア	11	+11	-	長期処方解禁等により処方拡大

注：金額は億円未満四捨五入
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況>

医療用医薬品市場：前期比-2.6%

・抗菌薬市場-13.8% ・ビタミンD3市場+5.9%

・骨粗鬆症及関連疾患用ビスホスホネート市場-4.0% ・SGLT2i市場+103.7%

(Copyright © 2017 QuintilesIMS.、JPM2015年4月-2016年12月をもとに作成、無断転載禁止)



2016年度第3四半期： 売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (-85億円)	セルフメディケーション事業 (-6億円)	医薬事業 (-79億円)
営業利益 (+38億円)	売上総利益* +20億円 (売上総利益率* 前年同期60.6% → 当期63.9%)	
	販管費 -19億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	-1億円
	・広告宣伝費	+0億円
	・販売促進費	-13億円
	・人件費	-3億円
・その他	-3億円	

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

※ 営業外損益：持分法投資損益 -8億円



2016年度：通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
売上高	2,815	-86	-3.0%	2,850	-35
セルフメディケーション	1,819	+12	+0.7%	1,854	-35
医薬	996	-98	-9.0%	996	-
営業利益	305	+16	+5.6%	295	+10
経常利益	365	-3	-0.7%	365	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	275	+50	+22.4%	240	+35
EPS(円)	344.15	-	-	300.37	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2016年10月31日時点の予想との比較



2016年度：業績予想の修正要因

売上高

		修正額	主な要因
セルフメディケーション	国内	-18億円	消費増税仮需織り込み分のマイナス 等
	海外	-16億円	アジア通貨安の影響を反映
医薬		—	—

費用

	修正額	主な内訳
販管費	-36億円	研究開発費 -13億円 広告宣伝費 -9億円 販売促進費 -5億円



2016年度予想: SM事業

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
SM事業全体	1,819	+12	+0.7%	1,854	-35
SM国内	1,520	+39	+2.6%	1,538	-18
リポビタンシリーズ	597	-8	-1.3%	604	-7
パブロンシリーズ	258	+10	+4.2%	255	+3
リアップシリーズ	164	-2	-1.2%	169	-5
SM海外	274	-25	-8.3%	290	-16

注: 金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2016年10月31日時点の予想との比較



2016年度予想 SM海外:売上高

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
SM海外	274	-25	-8.3%	290	-16
海外ドリンク剤	94	-10	-9.4%	97	-3
海外OTC医薬品	171	-13	-7.0%	185	-14
アジア	151	-5	-3.3%	157	-5
その他	20	-8	-28.3%	29	-9

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2016年10月31日時点の予想との比較



2016年度予想：医薬事業

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
医薬事業	996	-98	-9.0%	996	-
エディロール	227	+29	+14.4%	224	+3
ゾシン	151	-122	-44.7%	154	-3
ボンビバ	60	+11	+21.8%	66	-6
ルセフィ	28	+19	+217.0%	26	+2
ロコア	18	+14	+312.1%	18	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算
*2016年10月31日時点の予想との比較



2016年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (-86億円)	セルフメディケーション事業 (+12億円)	医薬事業 (-98億円)
営業利益 (+16億円)	売上総利益* +21億円 (売上総利益率* 前期60.9% → 当期63.6%)	
	販管費 +5億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+3億円
	・広告宣伝費	+12億円
	・販売促進費	-15億円
	・人件費	+2億円
	・その他	+2億円

* 返品調整引当金繰入・戻入調整後
金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

※ 営業外損益：持分法投資損益 -7億円(前期比-10億円)



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2017年2月2日現在)

	<u>特長他</u> 予定適応症	開発形態	国内／海外
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	国内
TS-152* (注射)	<u>抗TNFα抗体</u> 関節リウマチ	自社	国内
TS-141 (経口)	小児 注意欠如・多動性障害(AD/HD)	自社	国内
TS-133 (外用)	脱毛症	自社	国内

*TS-152: 一般名: Ozoralizumab



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2017年2月2日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	海外
TS-134 (経口)	統合失調症	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ